

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和4年3月25日（金） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所2階 205会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 岡村 千里、奥村 哲司、松浦 英幸、丹羽 良仁、増田 修治、田村 奈々、森好 佐和子、鈴木 誠、水内 智英、鈴木 温、間中 麻耶、目黒 優衣
 - (2) 執行機関 鈴木経営部長、井出企画広報課長、高橋企画広報課長補佐、小枝企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査
- 5 議題
 - ・「序論（イメージ）」及び「基本構想（素案）」について
 - ・合計特殊出生率について
 - ・令和4年度のスケジュールについて【報告】
- 6 傍聴人の数
0人
- 7 内容
 - (1) 開会

事務局（井出）	皆さん、こんばんは。 定刻となりましたので、ただいまより令和3年度第6回、今年度としては最後の犬山市総合計画審議会を始めさせていただきます。 本日は、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。 会議の進行は、企画広報課の井出が務めさせていただきます。 今年度もコロナの影響でいろいろありまして、前回、オンライン会議だったのですが、今日は皆さんとこうしてお会いできて、うれしく思っております。よろしくお祈いします。 初めに、鈴木会長よりご挨拶いただきたいと思います。 会長、お祈いします。
---------	--

(2) あいさつ

鈴木会長	皆さん、改めましてこんばんは。 今日は、年度末の最後の金曜日になります。大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。 既に資料も配られておりますが、前回、非常に重要なところについて皆さんにご
------	---

	<p>確認いただいたことから、今日は、この総合計画の変更あるいは基本構想の素案について、皆さんに読んできていただいた内容を確認するということになっております。そういうことで、皆様、もしお許しいただけるようでしたら、こういう時期でもありますので、時間については少し短縮して運営させていただければと思っております。</p> <p>これは、後で話もありますけれど、今日は議事内容が一部変わりました。皆さんにご審議いただきたい内容は、今日の議事（１）の部分になります。（２）合計特殊出生率は、前回の会議で出た話でありますけれど、これについては、今日議論の時間を取っても、議論の内容の成果を（１）に反映することができません。むしろ、来年度、特に６月あたりの基本計画の内容に生かしていきたいということで、今日、紹介はさせていただきますけれど、皆さん全員にどういう観点で今後検討していただきたいかという方向性について提案させていただき、時間を取って議論をすることは避けていきたいと思っております。理由としては、この議論の成果を序論及び基本構想（素案）に反映できないので、組み立て方の問題ということです。このデータそのものは今後生かしていきたいと思っておりますので、ご理解いただけたらと思っています。</p> <p>したがって、今日は１時間ぐらいで議論を進めていきたいと思っております。年度末ということもありますし、こういう状況の中で行うということもご理解いただき、運営にご協力いただければと思っております。</p> <p>そんなことで、冒頭から今日の進め方についてご提案させていただきましたけれども、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
事務局（井出）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議につきましては、お手元の次第に従って進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>事前に、中山委員、本巢委員より欠席とのご連絡をいただいております。委員総数15名のうち、現時点で出席12名となっており、過半数が出席されていますので、本会は成立しましたことを報告いたします。</p> <p>ご案内ですが、本審議会は公開とさせていただいております。会議録作成のため録音させていただいており、作成した会議録は後日公開させていただきますことをご承知おきください。なお、会議録につきましては、事務局で作成したものを、会長が指名する2名以上の委員にご確認いただいた上、署名していただくことになっております。事前に会長と打ち合わせをさせていただき、本日の会議録への署名者は、鈴木温委員と間中委員にお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、事前に送付いたしました資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、「はじめにお読みください」とあるもの、次第、委員名簿、資料1「序論（イメージ）」、資料2「基本構想（素案）」、資料3「犬山市の合計特殊出生率について」、資料3（別紙）「合計特殊出生率と各種データ一覧」。資料4「令和4年度犬山市総合計画審議会スケジュール（案）」、参考資料「第5回審議会での意見とその対応」が事前に送付させていただいた資料でございます。加えて、本日お配りした資料として、次第の差し替え、第5次総合計画改訂版と第2期いいね！いぬやま総合戦略を机に置かせていただいております。こちらの冊子については、会議が終わりましたら机の上にそのまま置いておいてください。</p> <p>次第の差し替えにつきましては、事前に予定してありました「まちの将来像につい</p>

	て」の調整が完了しなかったということで、今回の議事からは外させていただきます。これにつきましては、次回以降、準備が整い次第ご提案させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
--	---

(3) 議事

事務局(井出)	<p>それでは、ここから議事に入ります。</p> <p>議事の進行について、鈴木会長、よろしくお願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>それでは、早速、本日の議題(1)「序論(イメージ)」及び「基本構想(素案)」について、事務局から説明をいただきます。</p> <p>最初の資料では、まちの将来像について議論する予定だったのですけれど、それが取り下げになったものですから、その部分についてはまた次回ということになりました。</p> <p>ということで、今日の重要なポイント(1)になります。まず事務局から皆様に説明させていただきたいと思っております。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
事務局(高橋)	<p>私から説明させていただきます。</p> <p>現在の第5次総合計画改訂版にもありますけれど、総合計画にはまず初めに序論というものがあります。</p> <p>現在の序論では、総合計画はどういうものかという説明であったり、「まちづくりの主要課題」などが掲載されておりますが、新たに次の総合計画では、「犬山市を取り巻く状況」を加えて序論のイメージを作成させていただきました。</p> <p>総じて、今までの審議会での議論や、タウンミーティングやアンケートの結果を踏まえ、事務局で資料1「序論(イメージ)」として作成しておりますが、この審議会に初めてお出しするものとなっております。細かい文章の見直し等は引き続き行っていきたいと考えておりますが、計画の最初に出てくるものですので、このタイミングで一度提供させていただきます。</p> <p>こちらにつきましては、「記載しているものはこういうものでいいのか」、「こういうものも記載したほうがいいのか」というイメージで見ていただきたいと思います。細かい字句修正等は、これからしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>資料2は基本構想の素案です。</p> <p>前回の審議会で基本構想の骨子を固めさせていただきました。ありがとうございます。現在の計画のような冊子にしていくにあたり、今回、文章=イメージを作成し、整理させていただきました。あわせて、前回の審議会で出された意見等を参考資料としてつけさせていただいておりますけれど、こちらを踏まえて修正しております。こちらは、文章を見直し、事務局としては概ねこの内容で今の総合計画のような冊子にしたいと考えております。</p> <p>資料2の2ページ、3ページをお開きいただきたいと思います。3ページには、3つの基本目標と行財政運営、シティプロモーションについての説明を記載させていただきました。前回の会議で事務局から、行財政運営、シティプロモーションは大事なことなので計画には記載させていただきますが、基本目標とは少し違う場所に掲載するイメージと説明させていただきまして、それをイメージ化、図化してみたのが2ページです。</p> <p>ここでは、施策の体系を木に例えてみまして、今のところ、我々事務局の中では</p>

	<p>これがイメージに一番近いのですが、もし皆さんにより伝わる表現、イメージのものができれば、修正したいとも考えております。「目指すまちの姿＝基本目標を実現しましょう」ということを、「木を育てましょう」という形に例えています。木を育てるには水を注がないといけませんので、その水を市民、議会、行政が協働してやっていきましょう。これはうちの協働のまちづくり基本条例というものの考え方を踏襲しております。シティプロモーションは、実ったまちにスポットライトをあてて、皆さんに見ていただく、知っていただくという形のものかなと思っておりますので、下からスポットライトで光をあてるようなイメージにさせていただきました。基本目標、行政、シティプロモーションの関係はこのような形をイメージさせていただきます。</p> <p>前回、「協働」という言葉をあまり使っていなかったのですが、このイメージ図を作る中で、これまでの審議会でのご意見やタウンミーティングでのご意見も踏まえ、いま一度整理して、協働して水を注いで基本目標を達成していくというイメージで、このような図にしています。なお、協働については、資料1、序論の27ページにあります。まちづくりの主要課題としても記載していく予定です。</p> <p>説明については以上となります。</p> <p>議題（1）では、序論については先ほど話しましたが、方向性がこれでいいかなということで、細かい文章ではなく、構成であったり記載する項目についてこれでいいのか、という視点で見たいと思っています。資料2の基本構想（素案）につきましては、計画書はおおむねこの形でいいのか。こちらは字句の部分も見ていただけたらと思いますけれど、そういった視点からご意見いただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>既にお読みいただけたと思います。資料1、序論、まだイメージということです。資料2、基本構想の素案ということで、皆さんにお配りした内容、こういう組み立て方でまずは考えてみたいということです。</p> <p>この内容についてお読みいただいたと思いますので、内容について、どこからでも結構ですので、質問や提案、「あるいはここはこう変えたほうがいい」といった御意見をいただきたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。内容の確認でも結構です。</p> <p>奥村さん、どうぞ。</p>
奥村委員	<p>7ページの基本構想ですが、左側に凡例がありますように、鉄道、道路を除いたものが、5ページの目指す都市の全体像にある「6つのエリア（拠点）を設定」にあたるかと思うのですが、それでよろしかったでしょうか。</p>
事務局（小枝）	<p>はい。</p>
奥村委員	<p>7ページの基本構想ですけども、土地利用計画の前の計画の区分の仕方が、都市拠点エリアが、凡例に書いてあります、上からほぼ同じように思っていますが、この6つの区分の仕方というのはそういう認識でよろしかったですか。</p>
事務局（小枝）	<p>現在のものとそんなに変わっていないという。</p>
奥村委員	<p>はい。同じようなものかなと思いました。</p>
事務局（小枝）	<p>現在のものとほとんど変えていないです。踏襲していくものと考えております。</p>
奥村委員	<p>この中で何が変わったかなということで私が気づいたことが、調和型コミュニティ形成拠点という箇所が、従来は富岡地区と善師野地区の駅の周りだけでした。ここに栗栖地区、今井地区、池野地区が加味されたのかなという印象を受けました。</p>

	その点いかがですか。
事務局(高橋)	今の総合計画の31ページを御覧いただきたいと思います。 奥村委員からご指摘いただいた、今の計画の土地利用計画図が載っております。 調和型コミュニティ形成拠点としては、おっしゃっていただいた富岡前、善師野のほかに、栗栖、今井、池野があります。
奥村委員	今までと一緒ですか。
事務局(高橋)	はい。イメージとしては一緒だと思っていただければと思います。
奥村委員	思うのですが、富岡前駅前と善師野駅前の地域は、鉄道が走っています。したがって、前回の土地利用構想においても同じような感じなのですが、この地区は調和型コミュニティ形成拠点と、どう言うのでしょうか、都市拠点とはならないのでしょうか、鉄道駅を基本とした開発方針というものを考えてもいいのではないかと思います。 もう1点は、グレーのラインが国道41号線だと思うのですが、この沿線を産業誘導エリアといったようなもので考えてはいけないのかなと。もちろん、構想図ですので、構想と基本計画がまだ決まっていない段階ですけれども、前回の構想図というのを意識しながら眺めてみると、そんなことを感じました。 以上2点、どうかと思ってお話しさせていただきました。
鈴木会長	どうでしょうか、事務局。
事務局(高橋)	奥村委員から御指摘いただきました調和型コミュニティ形成拠点のうち、富岡前駅と善師野駅については、駅を拠点の中心としています。ほかのところは、今井、栗栖、池野は小学校の周辺を拠点と位置づけています。 駅周辺につきましては、5ページの土地利用の考え方というところで、鉄道駅周辺においては、今、おっしゃっていただいたように公共交通機関の拠点となりますので、その機能は大切に地域の足としてより活用しやすいように自転車等、「等」ということで少し広げておりますが、いろんな接続を改善して、地域の人により使っていただけるような、人が集まるような利便性の向上を図っていきたいというイメージで、今後、都市計画マスタープラン等もありますけれど、そちらと内部で話はしております。 それから、41号線沿線のお話について 実際、産業誘導エリアとして41号にくっついているものとしては2つ四角を書いています。実は、「富岡前駅」という文字に少ししかかっているところ(四角)をさらに岐阜のほうへ行くと、ほぼ山になりますので、なかなか産業誘導、様々な形の産業がありますけれど、山のほうで、権利関係が複雑なところ、保安林もあつたりしますので、なかなか一筋縄ではいかない部分もありますので、山の部分については産業誘導エリアとしての設定はいたしておりません。 富岡前駅の真下ぐらいの小さい四角、地図でいうと左側につきましては、地図上では離れているのですが、都市拠点エリア(橋爪・五郎丸地区)をまずは何とかしていくことによって、ここから土地利用の効果のにじみ出しと言うのでしょうか、土地利用の広がりのようなことを期待したいと思っております。 以上です。
鈴木会長	よろしいですか。
奥村委員	はい。
鈴木会長	ありがとうございました。 そのほか、いかがでしょうか。

	資料1、2、どちらからでも結構です。お気づきのこと、感想でも結構です。
間中委員	都市交流拠点エリアを広げたということで間違いはないですか。
事務局(高橋)	<p>絵的には少し大きくなっているかもしれないですが、31ページのものを見比べていただくと、絵に立体感は出ましたが、エリアを広げたということではありません。</p> <p>都市交流拠点エリアを都市拠点エリアの犬山地区と橋爪・五郎丸地区に分けた理由は、前の計画の30ページでは、上の段落で犬山地区の説明をして、下の段落で橋爪・五郎丸地区の説明をしていますので、説明上分けたほうがわかりやすいだろうということで、今までの都市交流拠点エリアを、犬山地区と橋爪・五郎丸地区の2か所に分けさせていただきました。</p> <p>大きさがどうということは、今のところないです。</p>
間中委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>人口が減るというイメージだったので、広げる感じもしたので。ありがとうございます。</p>
鈴木会長	ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。
水内委員	<p>観点は違うのですが、シティプロモーションが私の専門に近い部分であるのですが、この基本構想の中でも、シティプロモーションは非常に大きな枠組みとして、重要なこととして扱われています。これは非常に素晴らしいことだと思うのですが、シティプロモーションという言い方が、一般的になってきていますが、それで良いのか。最近シティブランディングという言い方が出てきています。</p> <p>あまり確実ではないですけど、プロモーションは、書いてあるとおりで、既にある魅力や犬山市が持っているけれど、表に出ていないものを出す、という意味合いだと思います。それに対して、ブランディングというものはもう少し積極的に、そういう魅力づくりも含めて、そぐうのかどうかはわからないのですが、実際のコンテンツづくりとか、実際のまちの目指す姿に近づけるような施策全体を含めて、その中にプロモーションというものが含まれるというような理解だと思います。</p> <p>そういった、もう少し広義の意味でのブランディングという言葉を使うことができるのかどうかということを、もう少し検討してもよいかなどは思いました。</p>
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。</p> <p>整理させていただきたいと思います。</p>
事務局(高橋)	よろしいでしょうか。
鈴木会長	はい、どうぞ。
事務局(高橋)	<p>水内副会長がおっしゃったシティブランディング、都市の魅力を高めていくということは、今、我々が作っている総合計画そのものが、都市の目標を定め、その目標に向かって都市を成長させる、魅力を高めていく。総合計画そのものがシティブランディングという考え方もできるのではないかなと、お話を聞いていて思いました。</p> <p>その中で、今はこういう絵を使っているのですが、それをどう表現できるかということは、シティプロモーションとの兼ね合いもあるかとは思いますが、井出からお話しさせていただいたように、いろいろ検討を重ねていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
水内委員	<p>そのとおりだと思います。</p> <p>ブランディングは言葉としては大きいので、総合計画自体じゃないか、ということは、確かにそうだと思います。そこは整合性もあると思います。</p>
鈴木会長	次へのいい意味での課題としていただきました。今後、特に基本計画の議論をし

	<p>ていくところでは、とても重要な視点だと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p>
目黒委員	<p>まず、資料1と2を読んだ感想ですけれど、気合いを入れて読まないといけないなと感じています。多分、冊子になると思いますが、もし市民全員に同じように理解して欲しいという思いがあるのであれば、もっとわかりやすくまとめて欲しいなと思いました。冊子が分厚いと身構えてしまうので、そうではなくて、ポイントだけを集めたものがあるといいなと思います。</p> <p>それから、資料1の2ページの(1)役割というところに、「市民と行政が主体的かつ計画的なまちづくりを進めていくために」と書いてありますが、この会議でこれまで出てきていた、「持続可能な」、「循環」といったキーワードがあったと思いますので、そういうものもあるといいのではないかと思います。</p> <p>資料2の3ページの基本目標2にも、「産業が栄えるまちへ」と書いてありますが、ここでも「循環」というのがキーワードで出ていると思うので、市内で循環させてあまり外にお金を出さないとか、波及効果で市の中で大きくして循環させていくということがすごく大事だと思うし、犬山に足りないところかなとこれまで感じていたので、「循環」も入れていただけたらなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
事務局(高橋)	<p>目黒委員からいろいろご指摘いただきました。</p> <p>(量が)多い、まとまっていないという点は、ご指摘のとおりで、全部の冊子になるので、これをぱっと見て「わかってください」ということは難しい話だと思います。(第5次総合計画)改訂版を作ったときには、A3見開きで概要版を作っています。今回の会議で予算を認めていただきましたが、約3万部作成する予定です。ご満足いただけるものができるかどうか、自信はないのですが、頑張って作りますので、よろしくお願いします。</p> <p>資料1と2でそれぞれ、この計画の役割と産業の部分で、「循環」というキーワードを今までの審議会でもいただいておりますので、そちらの部分、内部でその表現は一度検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
目黒委員	<p>ありがとうございます。</p>
事務局(井出)	<p>補足です。</p> <p>我々も市長から、「市民にわかりやすい表現」ということを口酸っぱく言われています。こちらは計画書ということで、ある程度固いところは仕方がないかなというところはあるのですが、市民の皆さんに見ていただく、理解していただくという意味で、概要版を作成するときにはわかりやすい内容を心がけていきたいと思います。</p> <p>そういったところで、目黒委員にもご協力いただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
鈴木会長	<p>犬山は協働というコンセプトを掲げているので、市民の皆さんに理解していただくだけでなく、こういう場などもそうですけれど、市政への参加、参画を非常にまちづくりの重要なポイントにしています。そういう参加、参画、協働を目指していきたいと思える記述の仕方、あるいは広報の仕方をしていかなければいけないということですね。そこはぜひ、折を見て、これから議論していきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>

鈴木(温)委員	<p>基本目標というものは、総合計画の根本の大きな柱になると思うのですけれど、それを3つ立てています。以前に、中学生やお子さんに犬山市のイメージでいろいろ聞いていて、テキストマイニングなどで表示されていたと思います、その中で非常に多く出てきたものが、犬山城とか歴史・文化に関することは、犬山に住んでいるお子さんたちが非常に誇りに思っているということを感じました。</p> <p>しかし、これを見ると、そういったことが全然出てこなくて、少し寂しいなと思いました。やはり住んでいる子どもたちが誇りを持っていることは入れておいたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>歴史・文化的なことは、少しは入っているのですが、基本目標2の中に少し見えるのですが、少し弱いなと思います。歴史・文化的なところをもっと、それが先ほど水内副会長もおっしゃっていたブランディングにもつながると思いますので、そこは外せないという気がします。</p>
鈴木会長	いかがでしょうか。
事務局(小枝)	歴史・文化につきましては、私としては基本目標1の1行目「犬山市の豊富な魅力の中で」というところに入れたつもりでした。その気持ちはここに入れてあります。「豊富な」と書いた中には、歴史・文化・自然とか、木曾川とか、いろいろあると思うので、それを具体的にどこかに書く形で考えてみたいと思います。
鈴木(温)委員	(基本目標)2の中に入れるという手もあるのかなと思っています。2は経済的な豊かさだけに特化しているような感じがするのですけれど、歴史・文化の豊かさや精神的な豊かさみたいなものをこういうところに書いてもいいのかなと。
事務局(井出)	ありがとうございます。
鈴木会長	確かにそのとおり。 子どもたちが熱心に語っていた。ただ、その子どもたちの語る視点というか、イメージを大事にしながら表現することが大事なので、現行はそこが見えにくいという点があります。 先生、ありがとうございました。
鈴木(温)委員	ありがとうございます。
鈴木会長	お願いします。
丹羽委員	<p>3点ほどあります。</p> <p>序論の、2ページ目、総合計画の概要、(2)構成というのがあって、これを見たときに、私のイメージでは逆ではないかなと。まずは基本構想があります。その土台の上に基本計画があって、その上に実際にやっていく展開があります、というイメージ図のほうの方が合うのではないかなと思いました。それは多分、3ページのスケジュールに合わせて書きたいという意識が非常にあったのかなと思ったのですが、やはりベースになるのが基本構想で、土台にあるべきということが私の個人的意見です。</p> <p>あと、資料で一番大事なのは立てつけです。立てつけの構成が大事で、これをめくって読まれると、なるほどと思えるような作り方をしないといけない。特に私が気になったところは、まちづくりの主要課題が23ページにあります。今の課題は何ですよという概略が書いてあって、「必要なこと」と出ています。下に、出された意見となっています。これは逆です。本来は課題があって、それに対して向かっていく方向性とか向かっていくべきまちの姿というのが描かれて、それを受けて基本構想というものが出てくるわけです。資料が逆ではないかなと思っていました。こういう流れの立てつけで、ページをめくると、読んだ人がそうだよねと言えるよう</p>

	<p>な流れにしたほうがいいのではないかと感じました。</p> <p>それから、余談ですけど、水内副会長がおっしゃった、プロモーションとブランディングという話がありましたが、細かい話で申し訳ないのですが、シティプロモーションという言葉が逆効果の表現になっています。基本構想の3ページのシティプロモーションの文章を読むと、「まちに魅力があっても知らなければ、選ばれない。犬山市の魅力を知ってもらうことが大切です。そして、選択肢に入れてもらい、最後に犬山市を選んでもらう」というところが、最後の「そして、選択肢に入れてもらい、最後に犬山市を選んでもらう」というものは少し印象が違って、まず一番最初に「選んでください」とPRする言葉、インパクトを持ってこないプロモーションにならないのではないかと、と。言葉が非常に弱くなっている。「選ばれるまちになるためにまちの魅力を発信します」であればいいと思います。この言葉が逆に弱く感じてしまうので、ここを強いインパクトの言葉にしないとプロモーションになっていかないのではないかと思います。</p> <p>どこのまちの目標もそうですけれど、まず「1番になります」。「こういうことをやって1番になります」というPRの仕方が一番インパクトがあるのではないかと思います。言葉が少し弱い、逆に弱くなっていると思いました。</p> <p>以上3点です。</p> <p>細かいことも言いましたが、立てつけの話です。イメージが、これは少し違うのではないかと印象を受けました。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。</p> <p>今のシティプロモーションのところの表現が少しネガティブなイメージを与えると捉えましたが、表現は考えさせてください。</p>
丹羽委員	はい。
事務局(井出)	<p>1点目の、図について「基本構想がそもそも土台でしょう」というところで、確かに円錐で上のほうにあって小さくなっているの、「大元は基本構想でしょう」という御指摘だと捉えました。表現を考えさせてください。我々も、これは一般的によくある図なので、そのまま使ってしまいましたが、おっしゃることもわかりますので、次のページとの整合性も含めて考えさせてください。</p> <p>立てつけの話ですけど、イメージとしては、計画書の中で、序論が前に来て、次に基本構想という形で来るように我々は考えております。ですので、基本構想の前に、いろいろ分析した結果、このような課題が見えた、と序論の中で示して、その後、どのようにまちづくりを進めていきたいと思いますという形で考えているのですが、そのように読めなかったのでしょうか。</p>
丹羽委員	<p>そうではなくて、私が言ったのは、資料の読み方、主要課題のところの順番としては、必要なことが先に来るのではなくて、まずは出された意見。こんな意見が出ました。それを受けて、我々としてはこういう方向性にしたいという流れにして、基本構想へ移る、という流れが自然ではないかということです。</p> <p>先に必要なものと結果が出ていますが、そうではなくて、現状分析、それに対しての方向性。向かうべき方向性はこうです。だから基本構想はこういうものを練ります、という立てつけのほうがいいのではないかとということです。</p>
事務局(井出)	わかりました。ありがとうございます。
事務局(高橋)	今、丹羽委員からいただいたことは、基本的に我々が「こうかな」と思って作ったものが、丹羽委員からすると逆だろうという意見が3点ほど。

	<p>イメージ的には、今の総合計画の8ページに、少し小さいですが、基本構想があって、基本計画があって、実施計画を作る、というこの矢印でつながるようなイメージが本来のものです。今回、円錐にしてしまったので、基本構想の部分が小さくなってしまって、実施計画が一番大きくなってしまっている。計画の根幹がどちらなのかがわかりにくくなっているというご指摘かなと思いましたので、こちらの表現は検討させていただきたいと思います。</p>
丹羽委員	そうですね。
事務局(高橋)	<p>まちづくりの主要課題の部分の必要なことと、出された意見。考え方の順番として、出された意見から我々は必要なことを導いて考えて、それを実行する、ということについて、それが逆という御指摘も、おっしゃるとおりかと思しますので、検討させていただきたいと思います。</p> <p>シティプロモーションについて、我々としては犬山市を選んで欲しいということが一番書ければ強くなるだろうと考えますので、表現として、内部で検討させていただきます。まず「犬山市を選んで欲しい」ということを前面に出す。それがシティプロモーションになる、という形がもっと伝わるように表現を考えさせていただきます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
丹羽委員	お願いします。
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>序論の2ページは、丹羽委員があえて言ってくれましたけれど、読んで、しっかりこないなというところは、皆さんも感じたところではなかったかなと思います。</p> <p>基本構想はビジョン、夢の部分です。その夢に向かっていろんなことをやっていかなければいけないということですが、当面のやっていくべきこと、そして、ある程度の期間を置いてやっていくべきこと、そして、いよいよ夢が実現していく、ということですが、この円錐からはイメージがわかりにくいということですね。</p>
丹羽委員	そうです。
鈴木会長	<p>ほかのところについてもごもっともだと思います。一回検討してみたいと思います。</p> <p>ほかのところ、どうでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
増田委員	<p>これとは少し違うかもしれないですけど、前回の総合計画は「可能性のトビラを開く」というタイトルで、このデザインを作られていると思いますが、これは再考するのでしょうか。タイトルはどのように決まっていくのか。</p> <p>「可能性のトビラを開く」という言葉はどこで出てくるのだろうかということが気になっていました。</p>
事務局(井出)	<p>鋭いご指摘です。</p> <p>「可能性のトビラを開く」は、審議会の中で議論されたキャッチフレーズではなく、計画を進めていく上での意気込みを表紙に載せさせていただいたところです。図もまさにトビラを開く写真で。</p>
増田委員	一般市民から見ると、わかりにくい。
事務局(井出)	かえってそういうことになってしまったかもしれませんが、当時、「やっていこう」という意気込みを表紙で表現させていただいたということですので、今回はこれを踏襲するわけではございません。

増田委員	<p>先ほどのブランディングの話ではないですが、タイトルや表紙、これは結構重要だと思います。</p> <p>先ほどの縮尺版にして一般市民の人も見られるようにするのであれば、やはり手に取りやすく、中を開いてもらいやすいデザインやキャッチコピーも重要だと思いますので、考えていただければと思います。</p>
事務局(小枝)	デザインにつきましては、予算と相談して決めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
鈴木会長	<p>今日は扱いませんけれど、次回審議会で提案させていただく基本構想のまちの将来像。そこの関係は、今後イメージしていかなければいけないと思います。もしかしたらまちの将来像が、この写真に、あるいはキャッチフレーズのような形で皆さんに伝わるような表現になるかもしれません。その辺はしっかりと議論していきたいと思います。</p> <p>これ、議会では話題にならなかったのでしょうか。</p>
岡村委員	<p>そうですね。特には話題にはなりませんでした。</p> <p>市民の人から、「何か暗くて・・・」という話は聞いていますけれど。</p>
鈴木会長	暗いな。子どもたちはアンケートで何か言っていませんでしたか。
事務局(井出)	特段ございません。
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかのところ、どうでしょうか。</p> <p>どうぞお願いします。</p>
間中委員	先ほど歴史などの話、犬山のいいところとして、もちろん犬山市の歴史、城下町やお城などがあるなと思ったのですが、「住みながら体感できる」というような言葉。歴史や自然、文化、自然もそうだと思いますが、「行く」観光ではなくて、住んでみたいと思うもの。例えば「行く」ことと何が違うのかなと考えると、住んで歴史を実際に体感したり、自然を日常的に体感できるということかなと思ったりもします。その辺をアピールする言葉を入れられるといいのかなと思いました。
鈴木会長	お願いします。
事務局(高橋)	<p>先ほどの鈴木温先生から御指摘いただいた歴史・文化の部分について、『犬山市の豊富な魅力』の中で我々としては表現したつもりです」と小枝から話をさせていただきましたが、この町で住んでいく中で、「このまちで成長しながら」というところが、訪れて成長するのではなく、暮らして成長していく、まちと一緒に成長していく、という思いを込めて、「このまちで」という言葉を入れました。</p> <p>ただ、我々はこういう思いを込めて作りましたが、先ほどの歴史・文化のところのように伝わるのが大事ですので、このあたりも一度、先ほど鈴木先生からご指摘いただいた部分も含めて検討させていただきたいと思います。</p>
間中委員	「行く」とは違うフレーズが感じられると、「体感」という言葉がいいのかわからないですけど、そういうフレーズがあるといいと思います。
鈴木会長	ありがとうございました。
事務局(小枝)	<p>今の「体感」というところは、まさにここの『学びたい』とか『楽しみたい』ということかなと思って書いています。犬山の歴史・文化の中で、人によってはそこで学ぶでもあるかもしれないし、そこで楽しむかもしれない。もしかしたら、ボランティアなどをして活躍するかもしれない。そういった魅力の中で何かをするというところをこの言葉に込めたところがあります。</p> <p>ただ、伝わっていないと思いましたので、表現については見直しをさせていただ</p>

	きたいと思っています。
間中委員	はい。
鈴木(温)委員	実は、私もこの表現については、打ち合わせのときに少しお話ししたことがあって、「誰もが育ち」というと、どちらかという自分で育っていくという感じですけれど、私が提案したかったのは「生まれ」という言葉を使いたかった。歴史・文化も含めて、そこに住むことによっていろいろ育まれていくという表現のほうがいいかなと、個人的には思っていますけれども、そういう意味とは違いますか。
間中委員	<p>少し「エンタメ」のようなイメージがあるといいのではないかなと思っています。「体感」ということはそういうイメージですけれど、伝わりますかね。これだと体感しているという感じではない。外から来る人も、楽しむ、学ぶ、活躍する、ができる。</p> <p>日常に歴史がある。私はそれが犬山の季節を感じたり、大雨のときの犬山城は住んでいないと見られないなと思ったりします。そういうエンタメチックなところをアピールしていくといいかなというイメージです。</p> <p>イタリアのベネチアなど、住んでいるだけで楽しくなりそうです。そういうイメージ、犬山に住んでいるだけで楽しく思えるようなイメージが何かあるのはないか。それを伝えたいなと思います。自然も近いし、桃太郎神社のあゆまつりでアユが取れたり。少し違う、ずれがあるなということがあると思います。</p> <p>どう表現するのか、成長だけではない、成長も大事だと思うんですけど、実際に感じる。「体感」という言葉はよくないと思うのですが。</p>
事務局(高橋)	犬山はやはり観光地のイメージがある中で、観光戦略がもうすぐできる。できたのかな。来年度から動くのですが、その中で、体感とは少し違いますが、体験型コンテンツというものを押し出しています。そうすると、どうしても今の犬山の環境の中で体感という、表現として観光に振れてしまう部分がありますので、いろいろ考えさせてください。
間中委員	はい。 観光だけではないと思うのですけれど。
事務局(高橋)	はい。そういう視点ではないというのはわかっています。 ただし、そういう単語を使うと、今の犬山ではそのように取られかねない部分がありますので、表現のところを考えさせていただきたいと思います。 お願いします。
鈴木会長	どうぞ。
水内委員	<p>鈴木委員や多くの委員がおっしゃっていて、少し大胆ですけれど、確かに今の総合計画を作るときには、課題を洗い出して、犬山市をめぐっている主要な社会状況、ネガティブな部分を整理して、その課題に対してどう克服していくか、という視点で作られるべきだと思います。</p> <p>今の議論を聞いていると、可能性の部分、強みの部分を洗い出して、犬山市の課題とともに犬山市の強み、例えばこれはほかの市町には負けていない、この部分は突出してすごくいいところだ、ということも同時に認識する。そこに甘えてはいけなと思うのですが、認識する必要があるのかなと。認識した上で、それをきちんと今後伸ばしていきます、発展的に10年後もこの位置にあるようにきちんとサポートします、という宣言は大事だと思います。もしかすると課題を解決するためには、魅力、強みの部分をうまく使ってあげることで、解決できるということが多々あると思います。そういう総合計画をあまり見たことがない気がしますけれど、こ</p>

	<p>の課題の整理と同時に、犬山市の強みの部分ということもどこかに整理してもいいのではないのでしょうか。少し大胆ですけども、感じました。</p>
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。 検討させていただきます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 ほかにいかがでしょうか。</p>
森好委員	<p>序論の4番目、23ページ、まちづくりの主要課題「住んでいる人の生活がイキイキと充実していること」。子育て世代の人が「子どもを産みたい」、「育てたい」につなげます」という部分ですけど、審議会の中でもそうですが、最近、私たち「にこっと」とJCさんとで女性の働き方というところを議論しています。</p> <p>その中でよく出てくるのが、必要なことで出された意見の中にもある「子どもが元気なまち」、「安心して・・・」、経済的な支援の部分というところもありますが、この頃話しているところが、お母さんの働き場所、場所はもちろんですけども、今の働き方、0か100です。行くか行かないか、やめるか続けるかという極端な話になってしまっていて、働き方という部分が一番大事ではないかという話を最近「にこっと」の中でもしています。</p> <p>子どもの年齢によって働き方も変わってきます。私のところは、成人してしまうので、自由は自由ですけど、間もなく介護がやってくるのだらうと考えたときに、またそこで働き方を考え直すという問題がどうしても出てきます。</p> <p>男女平等と言われながらも、女性が考えていくことがとても多かったりするので、そういった部分で、どこにというわけではないですけど、働き方というところも、言葉として少し出してもらえると、これを読んだ女性が、そういう働き方を犬山でも考えていけるのかなと思うので、言語化していただくと、読んだお母さんに、受け止めてもらえるのかなと思いました。</p>
事務局(井出)	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、多様な働き方、フルタイムで働いていた人が結婚して子どもができて、例えば産休が取れればいけれど、辞めなければいけなくなって、次にどのようなキャリアなのか。そのときに、またフルタイムで働くのか、あるいは多様な働き方の中でスキルを生かして、しばらく在宅で仕事といった具合に、多様性というものは大事だなと我々も感じています。</p> <p>ご存じかもしれませんが、これまでシェアリングエコノミーみたいなことを研究して、紹介したりもしています。「にこっと」さんもやっていると思いますが、そういったところも大事だと思います。女性に限らないですけど・・・</p>
森好委員	<p>そうですね。限らないと思います。</p>
事務局(井出)	<p>多様な働き方という視点も少し考えてみたいと思います。</p>
森好委員	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木会長	<p>ほか、いかがでしょうか。</p>
増田委員	<p>全体を通してのところですけど、基本構想のあたりの文章、3ページなどを全体的に読んでみると、私の印象ですけど、利用価値の高いまちという感じのことが書いてあって、住みたいまち、ここで生活したいまちというところをもう少し入れたいと思いました。本人がここで生活したい、住みたいという意図よりは、犬山市を選んでもらう、利用してくださいというようなスタンスに何となく見えたので、もう少し住みたいといった表現を入れたらどうなのかなと思いました。</p>
事務局(井出)	<p>表現を考えます。</p>

鈴木会長	<p>確かに、「選んでもらう」というのは古いね。この言葉自体、かつて都市間競争の中で随分使われた言葉で、改めて「選ばれるまちを目指す」という後追的、従属的なイメージだと、住んでいる人からすると、「ということは現状選ばれないの？」と捉えられてしまうので、ネガティブなイメージが先行しますね。</p> <p>この辺は全体のバランスもあるので、一度御指摘をしっかりと受け止めたいと思います。</p> <p>ほか、いかがでしょうか。</p>
丹羽委員	<p>「イメージ図は今後変更する可能性があります」と書いてありますが、私が見て、どういうイメージを受けるかという、確かにぱっと見た目は「そうだよね」というイメージを持つのですが、まちづくりの構想としては、「誰もが育ち、楽しみ、活躍できるまち」、「産業が栄えるまち」、「人にも地球にもやさしいまち」を目指していきます。</p> <p>このまちが結局、このまちに住んでほしいというイメージを持っているのであれば、「このまちが人を育みます」、「人を育てます」というイメージのほうがしっくりくるのではないかなと思います。これは確かに皆さん、「行政、市民などがまちを育てます」というイメージだけれど、最後には、「このまちに住んでほしい、たくさんの人に来てほしい」とイメージすると、「このまちが人々を育みます」というイメージを持たせるほうが、より強いのではないかなという印象を受けました。一つの意見ですけれど、そういうイメージのほうがいいのではないかと感じました。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。
事務局(井出)	この図は案ですので、そういうご意見も踏まえてもう一度考えます。
増田委員	はい。
鈴木会長	<p>ほか、いかがでしょうか。</p> <p>田村委員。</p>
田村委員	<p>何回か出ている資料2の7ページのエリアの図ですけれど、これはざっくりのものだからしょうがないのですが、駅しか描いていなくて、どこに何があるのか、市の施設などがもう少し、今あるものが描いてあったらいいかなと思いました。</p> <p>例えば、暮らしとにぎわいエリアと書いてあるところには、「こういうものを作ります」と書いては駄目だと思うので、「市民からは商業施設が欲しい」という声、暮らしとにぎわいエリアにはこういう声が出ています。自然がある環境保全エリアには、「小さい子どもでも車椅子を押してでも楽しめるような公園があったらいいな」という声が市民からありますというような。せつかく市民アンケートなどを取ったので、こういうところにこういうものが必要とされているのではないかと、想像になってしまうと思うのですが、「こういうのを作りたい」ということを書いたらいいかなと思いました。</p> <p>こういうことをやっているとページが増えてしまうけれど、もう少し各エリアの拡大図、これはざっくりとしたイメージなのでこれぐらいでいいのかなという気がしなくはないのですが、犬山といっても広いので、各エリアの拡大図などがあったらいいのかなと思います。</p> <p>住んでいる犬山でもわからない場所が結構あったりするので、特に私より若い10代の人だと、まだまだ犬山のことを全然わからないという人もいると思うので、自分の住んでいるところに何があるのかをもっと知ってもらうためにも、エリアを載せるページがあるのだとしたら、お店の名前は出せないかもしれないけれど、具体的にこういう施設があります、ということもあったらいいかなと思いました。</p>

	<p>以上です。</p>
事務局 (井出)	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>具体的な施設やエリアというお話がございました。</p> <p>総合計画という市の最上位計画で、我々としては、こちらの計画では大きな方向性を示していきたいと思っております。今ご指摘があったようなことは、鈴木温先生が委員として入っていらっしゃる都市計画マスタープランに地域別構想というものがあります。そちらでより細かいと言いますか、地域ごとの方針や、どの場所でどういうことをやっていく、ということを書いていくことになっていますので、その辺は役割分担させていただきたいと思っております。</p> <p>こちらの総合計画は、あくまで大きな方向性で、今おっしゃったようなことについては都市計画マスタープランという形で整理させていただきます。</p>
田村委員	<p>ありがとうございます。</p>
鈴木会長	<p>どうぞ。</p>
松浦委員	<p>基本構想の3ページ、基本目標2の「産業が栄えるまちへ」というところで、「市内の農業や商業、工業、観光に」とあるのですが、商業、工業、観光に活気を出させるイメージは、方向が何となくわかります。農業の方向が私には全然見えなくて。結構苦しいと思うのですが、そこをもう少し触れられないのかなと。</p> <p>そこから4～5ページ戻ると、これは前の章の25ページの主要課題の中にやっぱり産業振興とありまして、必要なことの中で、「がんばる事業者への支援、創業・起業支援」とあって、多分ここにくっつけていくのかなとしか思えない。ほかになのかなと感じます。農業の従事者のデータ出ていて、たしか経営者さんは70歳ぐらいですから、農業を考えると、このがんばる事業者への支援・創業ということでしょうけれども、「産業が栄えるまちへ」の中で、農業が増えた割にはほとんど見えない。</p> <p>これは総合計画の中で書き込めることか、どうかはわかりませんが、どんな捉え方なのでしょう。</p>
事務局 (高橋)	<p>農業の細かいことについては、来年度、基本計画の中で述べていくことかなと思っております。</p> <p>ただ、産業振興のところ、「がんばる事業者」というところ、認定農業者さんには若い人も実際にいらっしゃいます。私は去年まで産業課にいましたけれど、農業関係は結構頑張っているいろんな支援策を作ったり、いろいろ教室をやって農業を気軽に始められるような形ということも、いろいろ頑張っていますので、そのあたりは基本施策に乞うご期待という形でお願ひできますでしょうか。</p> <p>こちらは、「産業が栄えるまち」と書いたときに、農業を消すことは絶対にできないので、絶対に書きます。書きますけれど、イメージにつながらないという点は、変えることがいいのかどうかはわかりませんが、表現の仕方は考えさせていただきます。</p>
事務局 (井出)	<p>補足ですが、前回の会議で奥村委員から農協さんの活動もご紹介いただいて、結構頑張っている人もいらっしゃるし、地道にやっているところもあります。市も、トマト、あるいは民間でいいますと何度もお話しさせていただいておるココトモファームさんみたいに犬山の農産物であるお米を使ったバームクーヘンもやっています。確かに金額ベースでいえば、産業の中で農業は、工業に比べれば大きいわけではございませんが、犬山の大事な特徴でもあると思っておりますので、高橋が申しましたように、基本計画の中でその辺を際立たせたいと思っております。</p>

	<p>お願いします。</p>
松浦委員	<p>そう答えてくれるだろうと思っていました。</p> <p>ただ単純に生産しているだけでは難しいですね。ですから、6次産業とか農福連携。そういう意味で、非常に多様性が考えられる産業の一つだと思いましたので、何となくそういう、どこか想像せしめられるような表現があるといいなと思いました。</p>
事務局(井出)	<p>わかりました。</p>
奥村委員	<p>農協の立場から農業のPRで申し訳ないですけども。</p> <p>前回の審議会でも申し上げましたが、農福連携も手がけようとしていますし、実際に手がけているところもございます。前回申し上げましたように、6次化商品は手がけております。申し訳ないですけど、農協のPRの仕方が下手でして、今日ここに広報誌とか冊子いっぱい持ってきておきますので、会議が終わった後に見ていただいて、農業振興を皆さんとともに頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>前回のご説明で十分理解しなければいけないということもよくわかりましたし、ポイントもよくわかりました。農福連携は本当に重要なキーワードとなってきています。</p> <p>先ほど皆さんからお話があったところで、これを読んでいく中で、やはり犬山の第5次総合計画までの検証もやりながら、犬山の作られてきた魅力なり価値はどこにあるのかということがなかなか読みにくいですね、読み取りにくいというか。いろんなところに散りばめられてはいるけれど、例えば都市の現状を読んでも、「こうなっています」という表現になっていて、読む側からすると、いいことなのかどうなのかがわかりづらい。むしろ、「積極的にこういういいまちを作ってきた。だから住み続けるといいよ」、あるいは「選ぶといい」という願いを込めたメッセージになり切っていないところがあります。</p> <p>どちらかというところと課題のところが出てきて、まちとしては、都市経営の観点からこういう課題を市民の皆さんから投げかけられていることもあるし、市としても分析したので、課題を解決して魅力あるまちを作っていきますというロジックにはなっているけれど、過去も同じようなロジックでやってきたわけです。そうすると、どんな魅力を内包したまちになってきたのか、市民のみんなが誇れるところはどこなのか、というところがこの文章からは読み取りにくいという印象があります。その辺を今後改善していく必要もあるのかな。</p> <p>さっき水内副会長がおっしゃったところもありますかね。作るプロセスの中では、確かに問題点だけではなくて、このまちの魅力も意見としては随分あって、先ほど鈴木温先生がおっしゃった歴史・文化というものもまさにその一つだと思いました。</p> <p>その辺が文面から読み取りにくいので、もっと読み取りやすくするという事は一度検討していきましょう。</p> <p>ほかに何か追加することはありますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、今日いただいた意見、次に向けての宿題をたくさんいただきましたので、やりがいがあるかなと思います。ぜひ進めていきたいと思っております。</p> <p>先ほど言いました、合計特殊出生率が本日議題として上がっておりますけれど、これの今後の扱いについて、こういう形で次回あるいは次々回に向けてお読みくださいという紹介を事務局からしていただけますか。内容に踏み込まなくても結構か</p>

	<p>と思います。</p>
事務局(高橋)	<p>合計特殊出生率につきましては、前回の審議会で、全国(全体)-上がる、愛知(全体)-上がる、犬山市-下がるという表を出させていただきました。その中で、どうして犬山市だけが下がっているのか調べてみようということで、今回、いろいろ調べてみました。合計特殊出生率と関連がありそうなものを見つけものをいろいろ探してみた結果、今回、こちらの資料3とA3の横長別紙のものを作らせていただきました。</p> <p>前回、委員の皆様からなぜだろうという疑問をいただいていたので、これに少しでもお答えできればということで作らせていただきましたが、会長からはじめに言っていただいたように、この議論が進んだことによって、今、お話しいただいた序論や基本構想に何かしら反映するものではありません。どちらかという、来年度に議論していただく基本計画を考える中で、こういうものがリンクしているから、出生率を上げるのであればこういう取組をやったほうがいいのではないか、という話に活用できるものではないかなと考えております。</p> <p>正直、単純にデータで推計できるものではないなとは思っております。その中で、皆さんの実感とか体感、個人的な感覚で差し支えないのですが、データでは読み取れないものを皆様からいただければいいなという思いで、今回このような資料を作らせていただきました。</p> <p>最初会長にお話しいただいたように、年度末でせわしいところもありまして、こういう資料になっていますけれど、次回の審議会が来年度の5月、その次は6月を予定させていただいております。突き詰めれば突き詰めるほどよくわからなくなってくるデータでもあるのですが、このようなものが、皆様の率直な御意見をいただいて、来年度に作成していただく基本計画の中に何かしらの形で犬山の合計特殊出生率が上がるようなものを作っていければいいなと思っております。そのような視点で見ていただいて、今回はお時間の問題もありますので、次回以降にいろいろご意見いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>そういう趣旨です。</p> <p>多分、次々回ぐらいになると思いますけれど、基本計画の中で、子どもを産み育てやすいまちを目指していく。その結果として合計特殊出生率が改善される可能性はあるのかもしれませんが、それを今後議論していきますので、その議論をしていく中で定量的な資料として、これはご検討いただきたい。</p> <p>ただ、体感的な、定性的な御意見なり考えというものもおありかと思っておりますので、そこをこの定量的なデータと併せて、今後の基本計画検討の際の施策内容の議論をする際にぜひお持ちいただいて、市から提案される基本計画について、「いや違う」、あるいは「こういうものが必要だ」という具体的な政策のあり方についての提案に役立てていただきたいということで今日はとどめたいと思います。</p> <p>多分、これを議論したら終わらない。しかも、なかなか出口がない議論になってしまうし、今回、序論と基本構想を議論するのに、これは、前回ここで宿題が出たからといって、これをそのまま扱おうと、活かしようがないという現実があります。私、これを全部読んで感じたので、今回はこの会議の中では扱わないけれども、今後扱いたいので、皆さん、ぜひご活用くださいということでとどめさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p>
鈴木(温)委員	一言だけ。
鈴木会長	どうぞ。

鈴木(温)委員	<p>議論は今後ということで、今回はそういうことはしないということで了解いたしました。私が前回問題提起したので一言だけ。</p> <p>これを作成いただいてありがとうございます。読ませていただいて、非常に参考になりました。やはりこれを見ても、ほかの市町と比べて、明らかに犬山市だけなぜか特殊出生率が低いところのどの年代もいるということは改めて感じましたので、やはり何らか理由があるのではないかとということで、今後その辺を突き詰めていかないといけないなということが一つ。</p> <p>今回議論していただいた基本目標1などともかなり関係します。かなり重要な視点かなと思います。そのときに、皆さん、いろいろ個人的な考えをお持ちだと思いますけれど、参考までにさっきちらっと調べたところで、愛知県が人口ビジョンというものを作っているのですが、その中でアンケートを取っています。その中で、実際に子どもは何人欲しいという理想があって、それを実際には下回っている。その下回っている理由を聞いています。一番上位に来るのが、「子育てや環境にお金がかかり過ぎるから」が断トツに高いです。「働きながら子育てができる職場環境がないから」が2番目。3番目が、「自分や配偶者が高齢で産むのが嫌だから」。この辺が上位3つの理由です。これが犬山市に当てはまるのかどうかということとはわからないですけど、先ほど思ったのは、産婦人科の医院とかいった環境があるのかどうかということも気になっています。</p> <p>そのあたりを今後また議論していければと思います。</p>
奥村委員	1点よろしいですか。
鈴木会長	どうぞ。
奥村委員	<p>私、このデータをいただきまして、この合計特殊出生率の1位は大府市でしたので、大府市に聞いてみました。学ばならトップのところから学ぼうということで聞いてみたら、こういう返答がありました。</p> <p>1番は、住環境がいいと思う。名古屋に近いとか、区画整理をされたということもあるけれども、やっぱり民間開発もあると。官民そろって住環境を整えた。そして、公園も同時に増えたと言っていました。</p> <p>2番目は、働く場所がある。確かに愛三や豊田自動織機、スギ薬局も本店が大府市に変わったようで、働く場所が多い。</p> <p>3つ目、これはポイントになるかもしれませんが、子育て支援施策を一生懸命頑張っているという答えでした。アベノマスクよりも先にマスクを配った。10万円の給付を対象外にも配る、といった施策をやっている。待機児童ももちろんいませんし、民間の保育所についても力を入れた。小学校にはクーラーを全部つけたという答えが返ってきました。</p> <p>これを当市でやろうとすると随分お金がかかることだけれど、なぜここが合計特殊出生率1位かと思って、調べてみたら、こんな答えが返ってきましたので、もし参考になればと思って、発言させていただきました。</p>
鈴木会長	<p>なるほど。ありがとうございます。</p> <p>ぜひこういう議論をしたいと思いますので、皆さん、できれば事務局に事前にお調べになったことをお寄せいただいたり、あるいはこの資料は役に立つよということで御指摘いただくと、今日のところでないものも随分あると思いますので、いい資料になっていく。そのあたりを次回というか、事務局に届けていただくと、それをみんなで共有したりできますので、ぜひお願いできないでしょうか。</p> <p>合計特殊出生率改善に向けて、市もいろんな施策を検討しておりますけれど、</p>

	<p>様々な自治体、あるいは民間機関等の調べの中からも気づきがあるのではないかと いうことであれば、鈴木先生や奥村委員に話題提供していただいたようなところを ぜひ事務局にお寄せください。</p> <p>それから皆さん自身の御経験とか市の施策の中で感じ取っていること、そういつ たことをお寄せいただければ、それをもってぜひ検討したいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>やっぱり大事な指摘ですね。</p> <p>本日の検討いただく内容については以上ですが、令和4年度のスケジュールにつ いて、これは紹介ということになりますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局(高橋)	<p>よろしく願いします。</p> <p>資料4、最後に来年度のスケジュールについて御説明させていただきます。</p> <p>来年度の予定は、5月から11月にかけて計6回。今年度も6回でしたけれど、 6回の会議を予定しております。5月、6月、7月につきましては、開催日を決定 させていただきまして、今回の資料と一緒にお送りさせていただいております。皆 様、ご予定をよろしく願いいたします。</p> <p>5月の会議では、今は6次総をやっていますけれど、少し離れまして、今の第5 次総合計画の進捗について皆様から御意見をいただく形になります。今年度の第1 回と同じです。また、第6次総合計画の策定の進捗につきまして、我々市の内部で こういうことを今進めていますという報告をさせていただきたいと思っております。</p> <p>6月から10月の会議では、先ほど少しお話しさせていただきました基本計画を中心 に議論をお願いいたします。基本構想は、8年後のまちの方向性でしたが、基本 計画はもう少し具体的に何をするのかという議論になります。</p> <p>市の業務は多岐にわたりますので、基本計画の議論にあたりましては、初めに事 務局から素案もしくは骨子を出させていただき予定です。審議会では、確認とブラ ッシュアップをしていくという流れを予定しております。</p> <p>2月から、事務局案を作成するために役所の中での作業を開始しているところ です。基本計画を考えていく中で、場合によっては、今日御議論いただきましたが、 基本構想に立ち返る場面もあるかもしれないと考えております。</p> <p>最後の11月の審議会ですが、このときまでに第6次総合計画の素案という形でほ ぼ完成させていきたいと思っており、審議会でご確認いただいた上で、その後、市 長へ答申させていただければと思っております。</p> <p>手続としては、その後、パブリックコメントという手続と、2月の議会に上程し て、議会の議決をお願いするという形になりますので、何とかできれば11月には答 申いただく形で進めさせていただければと思っております。</p> <p>議論がとてもスムーズに進めば、10月に答申をいただけるかもしれないですが、 現状としては11月に答申をいただければと考えておりますので、皆さん、よろしく お願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>今の内容について何か、御質問とか御提案ありますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>

(4) その他

鈴木会長	(4)として、その他。事務局から委員の皆様には何かありますか。
------	---------------------------------

事務局(井出)	事務局になりますけれども、人事異動の内示がございまして、これまでこの会議に携わっていましたが課長補佐の高橋が異動となりましたので、最後に挨拶させていただきます。
事務局(高橋)	(異動のあいさつ)
事務局(井出)	新しく担当する職員につきましては、次回の会議の際に御紹介させていただきます。 その他は以上でございます。
鈴木会長	委員の皆さんから何か、この機会にお伝えすべきことはございますか。
各委員	(発言なし)
鈴木会長	ありがとうございました。

(5) 閉会

鈴木会長	本日は議事が若干変わりましたので、こういう形での運営にさせていただきました。熱心な御議論ありがとうございました。 第6回の審議会は以上で終了させていただきたいと思います。 どうもありがとうございました。
------	---